

■鈴木胤 異色の漢学・国学者。早熟の天才で、画期的研究で宣長学説を前進させた。飄逸な奇行に富み、逸話多数。

すずきあきら

加賀千代句集1764＝ 尾張国の枇杷島で、三河の郷士から医師山田家に婿入りした重蔵の三男に生まれる。

田沼意次老中1772＝ 8歳：

大原騒動・・・1773＝ 9歳：_丹羽謝庵に学んで、その才能を驚嘆され、18年長ながら以後雅友として兄事、

黄表紙始・・・1775＝11歳：_荻生徂徠門下の市川鶴鳴に入門、

ワヅ船蝦夷来 1778＝14歳：*早くも「張城人物誌」に名が載るほど、俊秀の誉れ高く、

源内獄中死・1779＝15歳：_「海東異録」「詭復讎論」を著す。

・・・1780＝16歳：_鶴鳴が本居宣長の「直毘靈」の駁論「まがのひれ」を著して、両者間の激しい論争になったのに衝撃を受けるとともに、宣長と田中道麿(尾張国学の祖)の存在を知る。

・・・1781＝17歳：父の実家鈴木姓を継ぐ。

天明大飢饉始1782＝18歳：

蘭学階梯・・・1783＝19歳：明倫堂督学の細井平洲が教授に勧誘したのを拒否、

意知刺殺事件1784＝20歳：父が死去、道麿も死去後、

蝦夷初調査・1785＝21歳：_宣長の「紐鏡」を書写したのを皮切りに、宣長の学問に急速に傾倒するようになり、

田沼意次失脚1786＝22歳：

・・・1788＝24歳：*のちに代表作「離屋学訓」の付録となる「答客問」を著し、

混浴禁止・・・1791＝27歳：

ワクマン来日・1792＝28歳：結婚。_宣長に入門する。

松平定信引退1793＝29歳：長子が誕生、

ワヅが正月・1794＝30歳：来名した宣長の帰路に同行して松坂に至り、勉強して帰郷、

写楽・・・1795＝31歳：新規御近習組同心として藩に出仕。

伊能測量始・1800＝36歳：_「御国詞活用抄」を借りて書写させ、

本居宣長没・1801＝37歳：*「活語トマリノモシノ説」を書いて宣長に送り、批判を請い大成を期待された直後に、宣長が死去。春庭の門人となるとともに、「言語四種論」「活語断続譜」「雅言音声考」の三部作を立て続けに著す一方、

ワヅが船来航始1803＝39歳：この年、親友の平田篤胤が「雅言音声考」を書写。_漢学者として「大学参解」を著し、好評を得る。

この間、医師勝田三雪の離れに居住、藩士の勤めや国学者との交際に忙しく、土地入手に奔走するも得られないなど、精神的苦悩も多く執筆が少ない状態が続く。

フェートン号事件 1808＝44歳：師本居春庭が「詞八衢」を刊行、

間宮海峡発見1809＝45歳：

_宣長が晩年に賞賛した服部中庸の「三大考」を巡る論争のなか、本居大平の求めに応じて、

浮世床・・・1813＝49歳：江川端に移住。_「三大考鈴木胤説」を著す。宣長門人の飛驒の国学者田中大秀が「竹取物語語解」を著し、

黒住教・・・1814＝50歳：翌年にかけて_校閲・添削を求めてくるなど、鈴屋門の有力者として尾張国学の中心と認められる。

伊能測量終・1816＝52歳：三部作のうち、「雅言音声考・希雅」が刊行された。

子供達が成人するとともに、_藩内でも学者としても評価され、

水野忠成老中1818＝54歳：御記録所書役から、

群書類従刊・1819＝55歳：_自由に学問に励んで良い身分を保障されて、生活も安定、集中的な著作が開始される。

・・・1820＝56歳：漢学者として「論語参解」を著す一方、国学者として「玉の小櫛補遺」、

蝦夷地直轄終1821＝57歳：「雅語譯解」、

シボト嶋鳴滝塾1824＝60歳：「言語四種論」も刊行となったが、「活語断続譜」はついに刊行に至らなかった。

日本外史・・・1827＝63歳：妻が死去。「少女巻抄注」など、源氏物語関係の著作を成す。

シボト事件・1828＝64歳：_再び漢学者としての代表作「離屋学訓」「離屋集初編」を刊行。

天保大飢饉始1833＝69歳：「養生要論」を刊行。_尾張藩校明倫堂で初の国学教授並となる。

滑稽+人情本 1835＝71歳：_藩から永代御徒格以上の名著を与えられる。漢文訓読の優れた論「改正読書点例」をまとめ、

・・・1836＝72歳：*刊行し、さらに「続養生要論」を成すも、老病に冒され、

大塩平八郎乱1837＝73歳：_没した。